

5-3.博士課程の修了要件、QE、学位論文審査体制、方法および評価基準

履修指導

履修指導は、各学生が博士論文を完成させるために必要な科目全てを履修、修得することを目的として、それぞれの専門能力に応じて個別的、重点的に行います。授業形式、指導方式は以下のとおりです。

- (1) 本学博士課程において提供される授業は、講義、演習、ゼミ形式等で行う。また、国際会議等における論文発表のための論文作成と発表演習、共同研究による論文作成と発表演習などを通じて行う場合もある。
- (2) 政策研究者を志向する者に対する指導は、概ね、各種ディシプリンに基づく学術的成果の発表、政策分析研究の成果発表等を目的として進められる。
- (3) 行政官キャリアを志向する者に対する指導は、概ね、特定政策に関する深い洞察力・歴史的検証に立脚したケーススタディーやレトロスペクティブスタディーを実施し、外部に対して発表することを目的として進める。

研究指導体制

本学博士課程における研究指導は、当該学生の研究課題と専門的能力、研究遂行能力に応じて、複数の指導教員によって構成される指導教員委員会（Advisory Committee）を通じて行います。指導教員委員会の構成は主指導教員1名、副指導教員1名以上3名以内とします。指導教員委員会は、当該学生の研究計画、これまでの科目履修状況等に応じて授業科目の履修についても指導します。授業科目の履修にあたっては、政策研究遂行上必要となる複数のディシプリン（主専攻・副専攻）を修得するものとします。

修了要件

本学博士課程においては、すべての学生は①履修要件を満たし、②博士論文提出資格試験（Qualifying Examination、以下 QE）に合格した上で、③論文の最終審査に合格することが要求されます。履修要件、QE、博士論文発表会、博士論文審査委員会の概要は以下のとおりです。

- (1)原則として1年次終了前後に、表1に掲げたプログラム別履修概要の必要単位数を修得済みまたは修得が見込まれる場合、QEに臨むことができる。

注：QE 関連の要件に加え、プログラム毎に要件がある場合があるので、カリキュラム表の備考欄を参照すること。

- (2) QE は筆記試験と口述試験で構成される（Policy Analysis プログラムでは、Basic QE と Field QE が課される。詳細については表2および表3参照）。博士論文執筆のために必要な基礎知識を筆記試験で確認し、研究能力と研究計画の妥当性について口述試験で確認する。

筆記試験は主指導教員による1科目、副指導教員または、主指導および副指導教員により認定された指導教員以外の教員による2科目（政策プロフェッショナルプログラムで博士（政策研究）の学位を希望する場合は合計1科目）を任意の形式（in-class, take-home, open-note(book), closed-note(book)）で行い、すべての科目で100点満点中60点以上を合格とする。口述試験では学生による研究計画案をもとに質疑応答を行う。原則3名以上の審査委員全員の討議によって可否を決定する。筆記試験、口述試験に不合格の場合、6ヶ月以上の期間において、それぞれ2度目まで受験可能とする。筆記試験と口述試験の両試験に合格した場合に、QE合格とする。

5. 博士課程

博士課程における学位論文及び最終試験の審査体制と評価基準

博士の審査は、博士論文最終発表会での質疑応答の状況を踏まえ、博士論文審査委員会が評価を行う。具体的な審査体制、方法及び評価基準は以下の通りとします。

審査体制

博士論文の審査は、学生ごとに設置された博士論文審査委員会が行います。博士論文審査委員会の構成は、4名または5名（原則として、指導教員委員会メンバー全員、外部審査委員1名（必須）および博士課程委員会委員長(代理)）とする。

審査方法

すべての博士課程学生は、博士論文を提出した上で、博士論文発表会において、研究成果を発表し、その正当性、妥当性、学術的貢献度を公表、立証しなければならない。博士論文発表会は発表と質疑応答で構成する。発表は疑義を明確にする簡単な質問時間も含めて45分以内とする。全体で90分間とする。

審査は、発表会での質疑応答の状況を踏まえ、博士論文審査委員会が評価を行う。博士論文審査委員会委員全員が評価基準に基づき、5段階のいずれかの評価を行う。評価の中央値が5となった場合に合格とし、1となった場合に不合格とする。評価の中央値が5か1になるまで審査、評価、修正のプロセスを続ける。

評価基準

本学博士課程において博士学位授与の対象となる提出論文は、以下の3つの諸基準を満たすものでなければならない。

- (a) Policy-relevancy ないし policy implication を有するものであること。
- (b) それぞれの学術分野の研究動向や先行研究を踏まえ、かつ、オリジナリティーを示すものであること。
- (c) 特定政策に関する優れた政策分析に立脚するものであるか、鮮明な問題意識に立脚したレトロスペクティブな歴史的研究ないしはケーススタディーとして深い洞察力を含むものであること。

上記基準を満たすためには、以下のいずれかを満たすことを必要要件とする。

- (a) 研究成果の一部が査読制を有する学術誌に掲載されたか、又は掲載が採択されていること。
- (b) 研究成果がすでに商業出版（出版助成等による出版を含む）されたか、あるいは予定されていること。
- (c) 上記（a）、（b）に相当すると認められる水準にあること。

評価点と修正スケジュール

評価	修正
5：微修正を持って評価基準を満たす	主指導教員（主査）に修正確認を一任
4：評価基準を満たすには修正が必要である	修正稿受領後、1週間以内に再評価して結果を報告
3：評価基準を満たすには大幅な修正が必要である	修正稿受領後、30日以内に再評価して結果を報告

5. 博士課程

2：評価基準を満たすには大幅な修正で、再度発表会の実施が必要である	修正稿を提出後、30日以降に発表会に出席することを求められる。以下、1回目の博士論文発表会と同じ手続きを踏む
1：不合格 修正をしても評価基準は満たさないと判断	

そのほか論文提出、論文発表会及びその他審査にかかる手続き等については、「本学博士課程学生に対する研究指導、履修指導並びに博士審査等の概要」に記載しています。

5. 博士課程

表1 プログラム別履修概要

プログラム	フィールド (研究分野)	初年度 (QE 以前)	2 年目以降 (QE 以降)
Policy Analysis	経済	Basic QE 以前に、必修科目 6 科目 (12 単位) を履修する。Basic QE は、入学後 1 年以内 (5 年課程の学生においては 2 年以内) に合格しなければならない。Field QE を受けるには、Recommended Courses を 3 科目以上 (6 単位以上) 取得する必要がある。	必要に応じて経済系理論科目を履修し、Field QE に合格後、博士論文作成に努める。
GRIPS Global Governance Program (G-cube)	政治、経済、地域研究、歴史、安全保障、国際問題	カリキュラムに基づき 12 単位以上を履修し、研究計画を作成して QE を受験する。 3 年制： 博士課程：最低 3 年間在籍し、必要単位数の履修、研究指導を受ける。 5 年制： 修士課程：最低 2 年間在籍し、必要単位数の履修、研究指導を受けポリシーペーパーを完成させ、最終試験に合格する。 博士課程：最低 3 年間在籍し、必要単位数の履修、研究指導を受ける。	3 年制： QE に合格の上、G-cube Workshop やチュートリアルを履修し、博士論文作成に努める 5 年制： QE に合格の上、G-cube Workshop を履修し、博士論文作成に努める。
防災学 (Disaster Management)	防災学	防災学に関する科目の中から 8 単位以上を履修する。	必要に応じて防災学に関する科目を中心に履修しつつ博士論文作成に努める。
科学技術イノベーション政策 (Science, Technology and Innovation Policy)	科学技術イノベーション政策	カリキュラムに基づき 10 単位以上 (科学技術イノベーション政策に関する学修歴がない場合は 16 単位以上を推奨) を履修するとともに、論文作成の骨格を準備する。	QE 終了後は、必要に応じて研究に必要な方法論などの知識を深め、論文指導セミナーに出席しながら博士論文作成に努める。
政策プロフェッショナル (Policy Professionals)	事例研究	政策プロフェッショナルカリキュラムに基づいて 10 単位以上 (これ以上を課す場合もある) を履修するとともに、論文作成の骨格を準備する。	必要に応じて政策プロフェッショナルカリキュラムに基づいて履修しつつ博士論文作成に努める。

5. 博士課程

表2 博士論文提出資格試験（QE）実施概要

博士課程学生は、必要な科目を履修し、原則として1年次終了前後（※QEの標準的な実施時期については表3を参照）に必要な単位数を取得済みまたは取得が見込まれる場合、QEに臨むことができる。QEは筆記試験と口述試験で構成される。Policy Analysis プログラムについては、Basic QE と Field QE で構成される。

プログラム	筆記試験／Basic QE		口述試験／Field QE	
	試験者／科目	実施方法	試験者	実施方法
Policy Analysis	以下の3科目： ・Microeconomics ・Macroeconomics ・Econometrics ※以下の科目を履修後、Basic QE の受験が可能： ・Advanced Microeconomics ・Advanced Macroeconomics ・Advanced Econometrics （それぞれのコースのI, IIを履修）	1日に1科目、in-class, closed-bookで筆記試験を行う	主指導教員及び副指導教員を含む原則3名以上 Field QE の受験資格： (a) Basic QE（全3科目）に合格していること (b) Recommended Courses より6単位以上を取得していること (c) Graduate Seminar I を履修済みであること (d) 主指導教員により承認されていること	学生の初期の研究結果の草稿をもとに口頭発表を行い、質疑応答を行う
GRIPS Global Governance Program (G-cube)	・主指導教員／1科目 ・副指導教員、または主・副指導教員が適当と認定した教員／2科目 計3科目	in-class / take-home のいずれか open / closed-book のいずれかを選択し、筆記試験を行う	主指導教員及び副指導教員を含む原則3名以上	学生の研究計画案をもとに口頭発表を行い、質疑応答を行う
防災学 (Disaster Management)				
科学技術イノベーション政策 (Science, Technology and Innovation Policy)				
政策プロフェッショナル (Policy Professionals)	・博士（政策研究）の学位を希望する場合、主指導教員または主指導教員が指定した教員／計1科目 ・博士（政治・政策研究）の学位を希望する場合、主指導教員／1科目、副指導教員または主・副指導教員が適当と認定した教員／2科目の計3科目。			

4. 博士課程

表3 QEの標準的な実施時期

	PA		G-cube		科学技術イノベーション政策プログラム	防災学プログラム	政策プロフェッショナル
	3年制	5年制	3年制	5年制	3年制	3年制	3年制
1年目	-----Coursework-----						
	Basic QE	Basic QE	Written QE	Written QE			Written QE
2年目			Oral QE	Oral QE	Written QE	Written QE	Oral QE
	Field QE				Oral QE	Oral QE	
3年目							
	Defense	Field QE	Defense		Defense	Defense	Defense
4年目							
5年目		Defense		Defense			

表4 博士論文審査の標準的な実施時期

	修了時期			
	3月	6月	9月	12月
博士論文審査委員の決定(→実施体制承認・博士課程委員会)	10月第3または第4水曜日	1月第3または第4水曜日	4月第3または第4水曜日	7月第3または第4水曜日
論文提出(→査読・審査実施の公表)	11月	2月	5月	8月
博士論文発表会・審査会	12月	3月	6月	9月
最終稿提出期限	下記博士課程委員会の2週間前			
審査結果の承認(博士課程委員会)	3月第1水曜日	6月第3または第4水曜日	9月第1または第3水曜日	12月第2または第3水曜日
審査結果の承認(研究教育評議会)・修了日	同上	同上	同上	同上

*上記は評価が4以上の場合のスケジュール。評価がそれより低い場合にはこれよりも時間を要する。

*博士課程委員会及び研究教育評議会は8月には実施していない。

*実施時期は、年度により変更することがある。